



発行 北海道学校図書館協会
 会長 渡部 浩士
 事務局長 佐藤 正行
<http://sla.gr.jp/~hokkaido-sla/>
 印刷所 (株) 有伸商会
 TEL (011)814-6211

2020(令和2)年度 青少年読書感想文全道コンクール 入賞者決定!!

今年も全道から、たくさんの素晴らしい作品が集まりました。第1次、第2次審査を経て、入賞者が決定しました。入賞者の皆さん、おめでとうございます。

第66回 青少年読書感想文全道コンクール 第46回 北海道指定図書読書感想文コンクール		特別賞入賞者一覧	
北海道知事賞	<ul style="list-style-type: none"> *「命」を守る最大の武器 *明るい未来を願って *私は、私の字を書きたい 	苦小牧市拓進小	5年 安田 朱里
北海道議会議長賞	<ul style="list-style-type: none"> *地しんの時間と約束の5分 *「くさい！」 *戦争による僕の知らなかった苦しみ ～「ゲンバクと呼ばれた少年」を読んで～ 	苦小牧市ウトナイ中	3年 久保 友櫻
北海道教育委員会教育長賞	<ul style="list-style-type: none"> *二日月が照らしたのは *廉太郎ノオトと私ノオト ・「とびっきりさい高の五分」 *「知る」ということは ・「努力の魔法を信じて」 ・好きと嫌いの絆 ・「死に方」を考える 	登別明日中等教育 5回生	佐々木あかり
北海道学校図書館協会会長賞	<ul style="list-style-type: none"> *わたしとおかあさんの五分 ・「クマゲラ博士」 ・ぼくにできること ・未来を信じて ・見つめる事、向き合う事。 	安平町追分小	2年 本多祐実香
毎日新聞社賞	<ul style="list-style-type: none"> *はっばのふしぎ ・「家族の時間」 ・知ることの大切さ ・自分らしく生きるためには…… ・「廉太郎ノオト」を読んで 	室蘭市海陽小	3年 橋本 舜太
北海道読書推進運動協議会長賞	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふかふかパンのひみつ」を読んで ・好きなことが未来の一步 ・自由になるための「勇氣」 ・「ぶたにく」を読んで ・ヒーロー候補生ー「青い鳥」を読んで 	室蘭市旭ヶ丘小	6年 池田 和音
北海道青少年育成協会会長賞	<ul style="list-style-type: none"> ・日野原先生から教わったこと ・何者 ・「ふうせんをくっつけてあげる」 ・「思いを伝える大切さ」 ・「当たり前」ではない「当たり前」 ・「ぼくの宿題」 ・ヒトのち虎、ときどき？ ・偽善者ではない生き方を ・朝が来るまで ・犬をかうということ ・『本間一夫さんに出逢って』 ・「ゆめのバトンをうけとった！」 ・ナイチンゲールとわたしのゆめ ・チキンは世界をすくう!? ・新しい自分へ ・ぼくができること ・「ポリぶくろ、1まい、すてた」を読んで 	北嶺中	1年 前田 海杜
はるにれ賞	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふたにく」を読んで ・「ふかふかパンのひみつ」を読んで ・好きなことが未来の一步 ・自由になるための「勇氣」 ・「ぶたにく」を読んで ・ヒーロー候補生ー「青い鳥」を読んで ・日野原先生から教わったこと ・何者 ・「ふうせんをくっつけてあげる」 ・「思いを伝える大切さ」 ・「当たり前」ではない「当たり前」 ・「ぼくの宿題」 ・ヒトのち虎、ときどき？ ・偽善者ではない生き方を ・朝が来るまで ・犬をかうということ ・『本間一夫さんに出逢って』 ・「ゆめのバトンをうけとった！」 ・ナイチンゲールとわたしのゆめ ・チキンは世界をすくう!? ・新しい自分へ ・ぼくができること ・「ポリぶくろ、1まい、すてた」を読んで 	帯広南商業高	1年 西島さくら
教育出版社賞		森町森小	2年 三国 華苑
文研出版社賞		室蘭市天神小	4年 南川 安菜
北海道図書教材協会賞		苦小牧市錦岡小	6年 河毛 優芽
図書館ネットワーク賞		登別明日中等教育 2回生	高澤真佑子
北海教育評論社賞		帯広南商業高	2年 日光 菜緒
光陽社賞		深川市一己小	1年 安居小優莉
光村図書出版社賞		函館市北美原小	3年 太田 樹
学校賞	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の部 ・中学校の部 ・高等学校の部 	留萌市留萌小	6年 福岡 唯
		遺愛女子中	1年 中川 実玲
		遺愛女子高	1年 金子 蒼空
		室蘭市八丁平小	2年 西川 心実
		岩見沢市東小	4年 横田 來良
		森町駒ヶ岳小	6年 進藤 めい
		登別明日中等教育 2回生	寺沢 美柚
		北海道大谷室蘭高	2年 成田 晴海
		室蘭市海陽小	2年 鈴木 大地
		教育大附属函館中	3年 兵吾 佳泰
		遺愛女子高	2年 吉田茉莉香
		羽幌町羽幌小	6年 亀谷 生吹
		音更町下音更中	1年 宇野 仁海
		留萌市留萌小	5年 野々村玲風
		土別翔雲高	1年 藤田 千草
		別海町別海中央小	2年 上杉実日子
		函館市北美原小	4年 和田 明葉
		旭川市西御料地小	5年 西野目実亜
		苦小牧市ウトナイ中	1年 山内 颯大
		帯広柏葉高	2年 藤井 一葉
		室蘭市本室蘭中	2年 三木 希海
		札幌聖心女子学院高	3年 児玉 優子
		室蘭市蘭北小	4年 熊澤 陽葵
		釧路市山花小	6年 松本 七虹
		苦小牧市拓勇小	2年 京極 大空
		室蘭市八丁平小	4年 岡野 日咲
		岩見沢市栗沢小	4年 成田 結
		札幌市西宮の沢小	6年 板倉 暖佳
		室蘭市八丁平小	1年 四方 響音
		小樽市桜小	4年 橘 詩音
		室蘭市立八丁平小学校	
		北海道登別明日中等教育学校	
		遺愛女子高等学校	

*は、全国コンクール応募作品です。(各部から代表～自由1点・課題1点)

北海道知事賞

「命」を守る最大の武器

苫小牧市立拓進小学校 5年 安田 朱里

「何も悪いことしてないのに・・・」笑顔いっぱいの公子ちゃんの写真を見ているのに、涙が溢れて止まらない。一度目は全部読んだ。その後、太平洋戦争の本を何冊も読んで、もう一度この本を開いたら、涙で何も見えなくなった。どうしても次のページをめくれない。指が動かない。こんなことは初めてだった。

どうして、この笑顔が一瞬で奪われなければいけなかったんだろう。どうして、原爆のボタンを押せたんだろう。最初は、もしこの本の写真を見ていたら、きっと押せなかったと思った。でも、戦争のことを調べるうちに、それでも押しただろうという考えに変わった。

では、どうすればボタンを押せなかったのだろうか。私は、小さい頃から母に言われてきたことがある。それは、「想像すること」。算数の文章問題を解く時 외에도、友達関係を相談した時にもしつこく言われた。相手の気持ちを想像すること。もし自分ならと考えること。だから、もし私がボタンを押す人だったらと想像してみた。すると、ボタンを押す人ではなく、何度やっても広島の大勢の人達の気持ちを想像してしまい、その気持ちが私にどんどん覆いかぶさってきて、指先すら動かせなくなるような感覚になった。想像の中でも、私はボタンに触れることすらできなかった。ボタンを押した人に想像力がなかったとは思わない。身近な人に対してはあったはず。足りなかったのは、

「知らない誰かの気持ちを想像すること」

ではないだろうか。

世界には、核兵器を持つ国が9つもあるらしい。この事を知り、私はとても驚き、すぐに無くすべきだと思った。でも、なかなか難しいことも知った。それなら、使われないようにしなければいけない。そのために必要なものが相手の思う想像力だと思う。それこそが命を守る

ための最大の武器だと私は信じる。

では、日本は想像力のある世界だろうか。例えばSNSによる誹謗中傷は、知らない誰かの気持ちを考えていないと思う。誰かの心に爆弾を落とすために、沢山の人がどんどんボタンを押して、その人の笑顔を消している。そう思うと、戦争の時と変わっていない、すごく怖い世界で私は生きている気がした。

私にできることは何だろう。この前、母と買い物に行くと、ずっと品切れしていたハンドソープが売られていた。二個まで買えるのに、母は一個だけ手に取った。「他にも買いたい人がいると思うから。」という母の言葉にはっとした。知らない誰かの気持ちを想像することは、こういう行動ではないだろうか。小さいことだけど、母の気持ちが私に伝わったように、私の気持ちも誰かに伝わり、繋がり、広がっていく。そう信じ、考えながら私は生きていく。

もう一度本を開いた時、私の気持ちは最初と違っていた。私の決意を公子ちゃんの笑顔と約束した。この決意も、感じた気持ちも、公子ちゃんの笑顔も、私は絶対に忘れない。

指田 和

『ヒロシマ 消えたかぞく』

(ポプラ社)



北海道知事賞

明るい未来を願って

苫小牧市立ウトナイ中学校 3年 久保友櫻

ページをめくるたびに、聴いたこともないルバーブの音色が頭の中に響いてゆく。優しく、静かに流れるような音。不思議な感覚だった。この夏、そんな本に私は出会った。

『この苦しみにいつか終わりが来るものかどうか、わたしにもわからないのだ。』

じじの言葉が心に響く。そして、今の大変な状況とリンクし、田舎に住む祖父母を想い、また胸が痛む。まだまだ収束の見えない新型コロナウイルス。日に日に感染者数は増え、感染予防を強いられながらの生活は、今も尚続いている。私にも、サミと同じように、大切な祖父母がいる。今はなかなか帰省することもできず、元気にしているだろうか、寂しがってはいないだろうか、心配になる。

今、私にできることはなんだろう。

じじとサミはアフガニスタンからの難民であり、アメリカに渡るまでの四年間、様々な国を渡り、差別と偏見の眼差しで見られてきた。私も幼少期に、父親の仕事の都合で何度も引っ越しを繰り返していたのだが、言葉のイントネーションを指摘され、心を痛めていた母の姿を、ふと思い出した。

現在、コロナウイルスによる差別や偏見、嫌がらせを受けている人がいるということも、また現実だ。同じ人間なのに、なぜ差別や偏見が生まれるのだろうか。

本の裏表紙に、アフガニスタンのこんなことわざが書いてある。

『初めて会った日には、友だち。再会した日には、兄弟』

世界中の人々がそう思えたなら、争いや差別はなくなるかもしれない。初めて会った日には、お互いを理解し合える友人に。再会した日には、お互いを認め合える兄弟に。みんながそう思えたなら、素敵だと思った。けれど、争いが途絶えることはなく、アフガニスタンでも、それは日常的に行われているという。サミも、タリバンによる自爆テロによって両親や親戚を亡くしている。

花火を見てフラッシュバックしてしまうページでは、涙が溢れて止まらなくなってしまった。同時に、十九年前に起きたアメリカ同時多発テロ事件を思い出す。私が生まれる前の出来事だが、事件を知った時の衝撃は今でも忘れられない。私には想像もつかない苦しみや哀しみ。私はなんて恵まれた環境で生活しているのだろうと、改めて考えさせられた。

じじの『ずっとこのままではないはずだ。』という言葉に胸が締め付けられる。そして、そんな人間ばかりではなく、優しくあたたかい人間も世の中にはたくさんいるはずだと、強く願う。

アメリカに渡ったサミも、あたたかい友人の存在に助

けられ、徐々に傷ついた心を解きほぐしていく。友人の力は偉大だ。私も現在の地に移り住み、たくさんの友人らに支えられてきた。サミのように、大切にしていたものを失くしてしまい、一緒に探し回ってくれた友人もいた。父親の転勤がなければ出会うことのできなかった、大切な友人だ。失ってしまったからこそ気付くことができるものもあるのかもしれないと思った。ひとを傷つけることができるのも人間なのだとしたなら、ひとを癒すことができるのもまた、同じ人間なのかもしれない。

私は今、中学三年生で人生の岐路に立っている。進学先がなかなか決まらないのだ。ほとんどの友人は、市内の高校へ進学する。私は市外の高校を目指しているのだが、やはり、また一から新しい環境や友人をつくりあげていく勇気がなく、二の足を踏んでしまう。サミの言葉は、そんな私の臆病な心を後押ししてくれているようにも思えた。

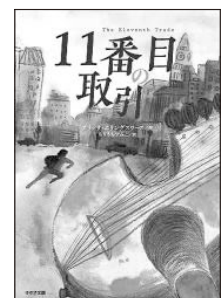
『ぼくは、新しい人の結びつきと、新しい歌と、新しい故郷を手に入れた。』

私も、新天地へ飛び込んでみようか。そこにはきっとまた、新たな出会いがあるはずだ。そして、サミのように、新たな時間の中で得られるものがあるかもしれない。私はサミから「勇気」という贈り物ももらったような気がした。まだまだ終息のみえないコロナ禍にも、きっといつか終わりはくる。「ただいま」と笑顔で祖父母の元へ帰省できる日が、マスクを外して友人と笑い合える日々が、きっと戻ってくる。最後のページをめくり、じじの手にルバーブが戻った瞬間、そう思えた。

もっと様々なことに興味を持ち、いつの日にか争いや差別や偏見のない世の中が訪れるようにと願い、今はたくさん勉強しよう。今できることを精一杯頑張ろう。それが今、私にできること、私がしたいこと、自分自身との取引だ。まずは来年の春、じじのように、祖父母を最高の笑顔にすることが私の目標だ。

本を閉じ、ルバーブの音色をスマートフォンで検索し、聴いてみた。私の想像とは少し違って、もっと力強く、響くような音色だった。けれど、そのどこまでも響き渡るような音色は、明るい未来への道標のようにも思えた。

アリッサ・ホリングスワース
『11番目の取引』
(鈴木出版)



北海道知事賞

私は、私の字を書きたい

北海道登別明日中等教育学校 5回生 佐々木 あかり

「まじめというのはね、悪くないけれど、少なくとも自然じゃない。」

私は、はっとした。精巧な字を目指し、技術を磨くことに夢中になっていた私の作品は、この一言で途端に色あせてしまった。

書道部に所属し、将来は書道家を志している私は、お手本が一番美しいと決めつけていた。しかし、本の登場人物である湖山先生の考えに触れ、衝撃を受けた。

周りを見渡すと、お手本以外にも美しいものがたくさんあった。元気よく払い、気持ちの良い線を書く小学生の字。丁寧に、時間をかけて書いたことが伝わる後輩の字。まっすぐで、明るい性格が伝わる友達の字。几帳面で、まじめさが表れた黒板の先生の字。全て形も筆圧も違うけれど、それぞれが生き生きと輝いているように見えた。上手な字とは、自分の輝きが相手に伝わるような字なのかもしれない、と思った。

主人公の青山霜介は、両親を事故で亡くし、生きる意味を失ったまま大学生活を送っていた。しかし、偶然、水墨画の巨匠、湖山先生と出会い、水墨画を通して生きるすばらしさを、命の在り方を実感していく。

緊張した様子で墨をすり、縮こまっている青山に、湖山先生が放った一言が冒頭の言葉だ。書道と水墨画の違いはあるが、私は上手な字を書こうと意識するあまり、手の動きが硬くなり、それが字に表れてしまっていることようやく気がついた。

昨年、初めて高文連に参加した時、私は唖然とした。会場には、紙いっぱい自由に書かれた字が敷き詰められていた。「全然お手本と違うじゃない。」お手本をいかに再現できるかを重視していた私にとって、それらの作品は邪道であった。「もっと古典に忠実に書くべきなのに。」このような気持ちを拭えないまま、昨年の高文連は終わってしまった。

若くして水墨画界でトップレベルの技術を誇る、湖山先生の孫娘、千瑛。彼女は、あと一步自分に足りないものは何かと悩んでいた。すると、湖山先生は、「現象とは、外側にしかないものなのか？心の内側に宇宙はないのか？」と、千瑛に問いかけた。心の内側の自分を知らない、自分の作品にはならない。この言葉を見てそう感じた私は、自分に問いかけた。「なぜ、書道がしたいの？」「私は、見る人に温かい気持ちを届けられるような字を書きたい。応援してくれる人が、喜ぶような字を書きたい。そして、書道が好きだから字を書きたい。真っ白な紙に、次々と文字が現れる様子が好きだ。私だけが知っている、筆を動かすリズムを感じるのが大好きだ。だから、私は字を書いているのだ。」

ふと、高文連で鑑賞した作品が頭に浮かんだ。高校生

らしい、力強く、時におおらかに書かれた作品。紙面から飛び出すようなのびのびとした字から、明るいパワーが伝わってくる。「作品が、相手の心にすっと入ること。そして、心を揺さぶること。」これこそが、芸術の本質なのだ、湖山先生に教わったような気がした。

高校二年生の高文連。全国大会への切符を握る、最後のチャンスだ。たっぷりと墨を筆に含ませ、穂先と心を整える。緊張が走る。その時「自由」に書いて良いと、湖山先生に励まされたような気がして、肩の力が抜けた。「ポチャン」

穂先から硯に、墨が滴る音がした。これが、始まりの合図だ。「私は、私の字を書きたい！」手と筆を一つにし、銛で突くように筆を運ぶ。完成されていく文字は、3Dで浮かび上がるようだ。墨の香りが漂う静かな部屋に、紙と筆が擦れ合う音のみが響き渡る……。

水墨画を通してたくさんの人と出会い、成長し、孤独感から抜け出し、世界が美しいと感じられるようになった青山。私は、今まで書道は一人で書く孤独なものだと考えていた。しかし、この本を読み、高文連の練習に励んでいると、書道は決して一人では書けないことに気づかされた。ご指導して下さる高木先生、山崎先生。共に頑張る仲間。顧問の先生。遅くまで練習する私に、晩御飯を待たせてくれた姉。何時でも駅に迎えに来て、普段から私を支えてくれる父。応援してくれる友達。書道のお話をしてくださる他校の先生方。最後の最後まで、字を書く時には支えてくれたみんなの顔が頭に浮かんだ。一人でも、孤独でもない。私は、たくさんの支えて下さる方々と共に、字を書いていたのだ。

「私は、私の字を書きたい！」出来上がった作品は、お手本とは少し違う。しかし、力強く、キレのある線が映える私の字だ。みんなと書き上げた、私の字なのだ。

お手本以外の正解を知らなかった私に、芸術の本質を教えてくれたこの本を、今後も何度も読み返すだろう。これからは、自分磨きを欠かさず、心を込めて書をしたためようと決心した。大好きな書道で、たくさんの人に感動を届けられるように。



砥上 裕将

『線は、僕を描く』

(講談社)

北海道議会議長賞

地しんの時間と約束の5分

安平町立追分小学校 2年 本 多 祐実香

わたしのながーい5分は、あの地しんの5分です。わたしの住む安平町は、おとし、大きな地しんがありました。胆振東部地しん。あの日のことを思い出すと、わたしは今でも泣きたくなります。家がゴーっと音をたて、たてにゆれ、何かがぶつかる大きな音と、ガラスが割れるすどい音。真っ暗な中、母がわたしと弟の上におおいかぶさり小さな悲めいを上げていました。長かったです。でもあとで聞いておどろきました。地しんはたったの15秒。そんなみじかい時間だったなんて。

家の中なのにくつをはいて逃げました。目をこらして家の中を見ると、黒い不気味なおぼけがいたようでした。外も真っ暗。永遠に続くかと思いました。だから朝がきて、明るくなった空を見上げてなみだが出ました。当たり前にあった家、当たり前に来る朝。大切なものが、たった15秒でこわれたのです。

母は陶芸家でした。家族の食器、わたしが生まれたときの記念のお茶わん、すべて母の作品です。でも、食器だながたおれ、すべてが割れました。母は片付けながら、泣いていました。「また作ろうよ。」と声をかけると、「そうだね。」と言いました。でも、母は陶芸をやめて、ちがう仕事をしなくてはいけなくなりました。「生きているから大丈夫。」母が言いました。家族の時間は続い

ていきます。

大好きな動画があります。母が赤ちゃんのわたしをおんぶして、ろくろをひいている動画です。大きなねん土からシュルルとお茶わんが出来ます。動画は5分。ながーい長い地しんの15秒と、ろくろをひいてお茶わんを作るあつという間のみじかい5分。時間はこの本の通りいろいろあるんだよね。不思議だね。

わたしにはゆめが出来ました。陶芸家になるゆめです。わたしは未来の5分で家族のお茶わんを作ります。すべてをこわした15秒。でもその15秒でわたしと母のゆめは重なったのです。時間と同じくゆめも続いています。お母さん待っててね！大切な約束の5分です。



リズ・ガートン・スキャンロン
オードリー・ヴァーニック

『ながーい5分 みじかい5分』

(光村教育図書)



総 評

審査委員長 北海道学校図書館協会副会長 猪股 嘉洋
(札幌市立新陵小学校長)

本年度の第66回青少年読書感想文全道コンクール及び第46回北海道指定図書読書感想文コンクールには、632点の作品が寄せられました。新型コロナウイルス感染症への対応を余儀なくされる中、出展された児童生徒の皆様及び指導された方々に、心よりお礼を申し上げます。どの作品も、各支部における厳正なる審査を突破してこられた作品だけあって、読み手を作品の世界に引きずり込む素晴らしいものばかりでした。

今年は、新型コロナウイルス感染症対策のため、生活様式が大きく変わりました。特にコミュニケーションの取り方に関しては、考え方を考える必要がありました。三密を避けることが大前提ですので、今までのような会話の仕方でのコミュニケーションを取ることができない状況が続いています。このような状況下だからこそ、文字で自分の思いを伝えることが大切だと考えます。

本コンクールの審査は、小学校低・中・高、中学校及び高等学校の5部門に分かれ、総勢25名の審査員により厳正に審査いたしました。審査する中で、あらためて読書感想文の書き方に、正解は一つではないということを実感しました。会話では、声の大小やアクセントなどの話し方と顔の表情や身振り手振りを駆使して、相手に自分の思いを伝えます。文章で自分の思いを伝える場合、言葉の使い方、漢字の使い方、語尾、構成など、いわゆる「書きっぷり」が重要です。そこに、自分らしさが表れます。

今年度は、自分の生活を基にした考え方や感じ方を、自分らしい書きっぷりで表現された作品ばかりでした。これは、本を読んだ感想という枠を飛び越え、コロナ禍で経験した様々なことから自分の生活を振り返り、鋭い感性で想像を膨らませ、それに合う書き方で表現したからに違いありません。ですから、いろいろな書き方や表現の仕方があり、私たち審査員を魅了したのだと思います。

今回応募された皆さんには、「読書」と「文字で自分の思いを伝えること」の素晴らしさと楽しさを、周りの人たちに伝えてほしいと思います。人とのつながりが広がることで、人として成長し、自分らしさに磨きがかかると思うからです。皆さんの未来に期待しております。

北海道議会議長賞

「くさい！」

室蘭市立海陽小学校 3年 橋本舜太

「くさい！」それはぼくのくつ下。表紙にかかれたハエがたかっているベトベトのくつ下と全く一しょ。「くつ、ぬいだでしょ。」バレーボールの練習が終わった帰りの車の中でお母さんにいつも言われる言葉です。後ろのざせきでこっそりぬいでも、運転中のお母さんにばれてしまいます。自分では感じないけれど、それほどくさいらしいです。

「においを“かぐ”ってどんなことか、考えたことある？」とさいしょのページに書かれていました。ぼくは心の中ですぐ「ない。」と答えていました。さわったり、見たりできないものだから、あまり意しきしていなかったのだと思います。でも、鼻をつまんで大きなおせんべいを食べてみると、全く味がしませんでした。においがわからないと、こんなに味がわからないのだとおどろき、もしにおいのない世界だったらどうだろうとそうぞうしてみました。おなががすいても何も食べる気にならないし、おやつやデザートも楽しみではなくなります。生きていてもつまらないし、つらくて死んでしまうかもしれません。それほど、においは大切なものなのだと感じました。

ぼくは「におい」という言葉を国語辞典で調べてみました。すると、「臭い」と「匂い」の二しゆるいの漢字があることがわかりました。ちがいを知りたくて、漢字辞典でも調べてみると、「臭い」はいやなにおいで、「匂い」はよいにおいの時に使われると書いてありました。人は昔からにおいを悪いかよいかで分けてきたのだろうと思いました。

ぼくにとっての「臭い」は動物のふんやすなはまに打ち上げられた海そうのにおい。「匂い」はカレーライスやチョコレート、コスモスのにおい。でもお母さんはすなはまの海そうは「匂い」だと言います。「臭い」が人

によっては「匂い」であることもあるのです。

また、マッコウクジラの下水のようなにおいのする食べかすや、ロックハイラックスという動物のふんが香水の原料になっているとこの本には書かれてありました。

「臭い」が「匂い」になることもあるのです。

鼻のおくにあるにおいを感じるセンサーは人によって組み合わせがちがうそうです。生活している中で変化することもあるかも知れません。みんながすきなにおいが、ある人にはいやなにおいかもしれないのです。

このことは、においのことだけではないと思います。心のセンサーも人によってちがう組み合わせになっていると思います。だからお楽しみ会でドッジボールをやるか、なわとびをやるかでもめたり、きずつけるつもりはなかったのに友達をなかせてしまうことがあったりしてしまいます。でもこれからは、人それぞれセンサーがちがうということをわすれないで、あい手の感じ方を意識しながら生活をしていこうと思います。

「お母さん、ぼくのくつ下の臭いは、練習をがんばった匂いだよ。」

クライヴ・ギフォード

『くさい！』

(河出書房新社)



2020年度 北海道の先生がおすすめる本 北海道指定図書

小学校低学年の部



きょうりゅうのサン いまぼくはここにいる

かさいまり/文 星野 イクミ/絵
アリス館 定価1,500円+税
サンは、ティラノサウルスに追われて海の中へ。そして化石になった。北海道で発見されたカムイサウルスがモデルの絵本。



とんでいった ふうせんは

ジェシー・オリベロス/文 ダナ・ウルエコッテ/絵
落合 恵子/訳 絵本塾出版 定価1,500円+税
おじいちゃんの手を離れて、次々に飛んでいった記憶という風船。認知症をテーマに家族の絆と愛情を描いた絵本。



おおゆき

最上一平/作 加藤 休ミ/絵
鈴木出版 定価1,400円+税
大雪で動けなくなった車がなんと1000台渋滞でトイレには行けないし、おなかがすくし…。雪国の助け合いの物語。



キリンのあかちゃんが うまれた日

志茂田 景樹/文 木島 誠悟/絵
ポプラ社 定価1,500円+税
「きたのどうぶつえん」のつがいのキリン、スカイとコハネ。コハネに赤ちゃんができて、お父さんになるスカイはドキドキ…。

中学校の部



恐竜まみれ 発掘現場は今日も命がけ

小林 快次/著
新潮社 定価1,450円+税
「見つけたぞ!!」北海道発の新種恐竜カムイサウルス。謎だらけのデイノケイルスはこう発掘された。北大教授が語る探検記。



リスタート

ゴードン・コーマン/著 千葉 茂樹/訳
あすなる書房 定価1,600円+税
13歳の少年が記憶喪失になった。自分は、以前かなりのワルだったことを知る。少年が自分の過去と闘っていく物語。

小学校中学年の部



北国からの動物記 クマゲラ

竹田津 実/文・写真
アリス館 定価1,400円+税
大型のキツツキ、クマゲラは、ドドドという音で木を掘り、ひそむ虫を探します。体のふしぎや子育て、森の恵みも紹介。



手と手をぎゅっとなぎつたら

横田 明子/作 くすはら 順子/絵
佼成出版社 定価1,300円+税
それぞれの子が持つ個性に対する理解を深め、障害者や健常者という枠を超え、友情を育む心の交流を描いた作品。



ポリぶくろ、1まい、すてた

ミランダ・ボール/文 エリザベス・ズーン/絵
藤田 千枝/訳 さ・え・ら書房 定価1,500円+税
いま世界に広がっているプラスチックごみ問題。20年前、ポリ袋のリサイクルをはじめた女性の実話を元にした絵本。

小学校高学年の部



読む喜びをすべての人に 日本点字図書館を創った本間一夫

金治 直美/文
佼成出版社 定価1,500円+税
5歳で失明した本間一夫さん。本の朗読を聞くのが大好きだった彼が、国内最大の点字図書館を創立するまでを描きます。



いつか、太陽の船

村中 季衣/作 こしだ ミカ/絵
新日本出版社 定価1,500円+税
宮城県気仙沼で大地震にあった海翔は、造船業を営む両親と北海道の根室に移住した。根室はサンマの街だった。



風を切って走りたい! 夢をかなえるパリアフリー自転車

高橋 づらら/著
金の星社 定価1,400円+税
自転車に乗りたいと願う体の不自由な人のために、多くの自転車を作り続けた畑田健一さんを描いた感動のノンフィクション。

感想文は夏休み明けに、学校に出してください。
詳しくは、「応募のきまり」をご覧ください。

●ホームページ

北海道学校図書館協会

検索

第66回 青少年読書感想文全道コンクール 第46回 北海道指定図書読書感想文コンクール

■主催/北海道学校図書館協会・毎日新聞社北海道支社

■後援/北海道・北海道議会・北海道教育委員会・公益財団法人北海道青少年育成協会 ■選定協力/北海道読書推進運動協議会

📖 北海道の本を読みましょう!

優 秀 賞

小学校（低学年）の部（12名）

作 品 名	氏 名	学 校 名	学年
『私もありがとうのおくりもの』	松 本 百 虹	釧路市山花小	2年
おかあさんのおべんとう	川 村 奈々未	函館市湯川小	1年
メガネをかけたら	小 原 芽 依	函館市本通小	2年
心のつながりと、ともだち	佐 藤 日 和	札幌市東園小	2年
がんばりやてるちゃん	佐々木 蒼 太	砂川市空知太小	2年
ゆきのけっしょう	小 野 愛 菜	室蘭市海陽小	2年
クロガネモチみたくになりたい	田 野 紗 彩	苫小牧市拓進小	2年
「それぞれの五分」	佐々木 結 望	小樽市山の手小	2年
時間ってふしぎ	山 本 有 桔	教育大附属旭川小	2年
『タヌキのきょうしつ』を読んで	本 間 明 華	室蘭市旭ヶ丘小	2年
「ぼくの5分の使い方」	定 岡 希 扇	深川市深川小	2年
『いっしょに大きくなろうね』	松 本 百 虹	釧路市山花小	2年

小学校（中学年）の部（12名）

作 品 名	氏 名	学 校 名	学年
ねがい	山 崎 莉 子	恵庭市島松小	3年
個性と向き合おう	福 嶋 杏 梨	函館市高丘小	4年
お金で買えないもの	細 井 睦	函館市赤川小	3年
かあちゃん取りあつかい説明書を読んで	妻 倉 咲 和	森町森小	4年
ポリぶくろ、一まい、ひろって	前 田 海 音	札幌市伏見小	4年
「ポリぶくろ、1まい、すてた」を読んで	松 浦 みいな	室蘭市八丁平小	4年
「ポリぶくろ、1まい、すてた」を読んで	伊 藤 大 眺	森町森小	4年
「ありがとう」は魔法の言葉	鈴 木 爽 太	札幌市厚別北小	4年
「ポリぶくろ、1まい、すてた」	高 木 瑞 生	羽幌町羽幌小	4年
「笑顔であくしゅを」	穴 吹 瑠	旭川市愛宕東小	4年
舟をほる鳥神	野 田 千 実	函館市赤川小	3年
「手と手をぎゅっとにぎったら」を読んで	安 達 莉 歩	岩見沢市第一小	3年

小学校（高学年）の部（12名）

作 品 名	氏 名	学 校 名	学年
「キング牧師」を読んで	岡 野 衣 吹	室蘭市八丁平小	6年
『八月のひかり』を読んで	岩 松 莉 香	小樽市山の手小	6年
「八月六日の光」	千 葉 好 香	岩見沢市南小	5年
「一生けん命生き抜く」	荒 谷 成 美	旭川市東町小	6年
「ヒロシマ 消えたかぞく」を読んで	小美浪 颯 士	室蘭市旭ヶ丘小	5年
『失われたいつもの日』	渡 邊 心 雪	苫小牧市ウトナイ小	5年
「忘れてはいけない」	上 杉 正太郎	別海町別海中央小	5年
原爆が落ちるその時まで沢山の家族の暮らしがあった	丸 山 翔 生	北見市東小	5年
「風を切って走りたい！」を読んで	岸 本 梨 桜	旭川市緑が丘小	6年
あきらめない心	齋 藤 葵	知内町湯ノ里小	6年
「ありがとうの一言で」	大 森 花 音	岩見沢市幌向小	6年
僕も堀田さんのように	熊 谷 遼	苫小牧市美園小	5年

優 秀 賞

中学校の部 (15名)

作 品 名	氏 名	学 校 名	学年
「エンバシー」(ぼくはイエローでホワイトでちょっとブルーを読んで)	川 村 球 宇	鹿部町鹿部中	3年
ナチ・ドイツ	小 林 花 梨	小樽市菁園中	1年
家族の第一歩	伊 藤 彩 葉	藤女子中	1年
生きること	金 一 裕	藤女子中	1年
あの日を忘れないために	高 輪 柚 希	藤女子中	3年
差別のない世界へ	北 口 楓 花	岩見沢市緑中	2年
「もったいないを減らす〜ハンガリー・マータイさんが教えてくれたこと〜	白 土 春 花	函館市亀田中	2年
安音からのメッセージ	関 根 凜 咲	遺愛女子中	2年
親愛なるアンネへ	田 近 実 咲	函館白百合学園中	3年
「十一番目の取引」を読んで	長浜谷 圭 資	函館市巴中	3年
「気づく」ということ	佐 藤 寧 々	七飯町七飯中	2年
「記憶をつなぐ」	大 宮 未 来	室蘭市東明中	2年
「まっすぐに泳ぎたい」	梅 田 真 緒	苫小牧市和光中	2年
「未来をつくる私たちに託された責務」	井 川 若 菜	教育大附属函館中	3年
あと一歩の努力	嵐 田 佐和子	苫小牧市明倫中	3年

高等学校の部 (15名)

作 品 名	氏 名	学 校 名	学年
十七歳の少女たち	五 井 彩 桜	滝川西高	2年
「塩狩峠」を読んで	遠 藤 優 花	士別翔雲高	2年
「生きる」こと「死ぬ」こと	青 木 萌 加	士別翔雲高	2年
「平林都の接遇道」を読んで	帆 苺 萌 寧	士別翔雲高	3年
平和は怖い	土 岐 希 美	札幌光星高	2年
平和―大塚辰夫さんの手記を読んで―	棚 橋 歩 実	札幌光星高	1年
私の色	藤 井 裕 子	遺愛女子高	1年
老人の姿から見えた自分の課題	友 杉 悠 愛	遺愛女子高	1年
西の魔女が死んでも	平 松 明 華	函館白百合学園高	1年
不条理な世界を生きる	宇 野 天 那	帯広柏葉高	2年
『変身』がもたらすものは	三 本 柚 葉	帯広柏葉高	1年
「たいせつなこと」	西 村 愛美花	函館商業高	2年
過去を繰り返させてはいけない	小 川 萌 理	函館西高	2年
音楽は繋ぐ	田 村 夏 帆	帯広柏葉高	1年
写真のもつ真の力	小 倉 葵	函館商業高	2年

◆感想文集『北海道の読書』(令和2年度版)の普及を

第66回青少年読書感想文全道コンクール入賞作品集

○小学校版 (1,000円)

特別・優秀・優良 入賞者全作品を掲載

○中学校・高等学校版 (1,000円)

特別・優秀・優良 入賞者全作品を掲載

【申込・問合せ先】北海道学校図書館協会 文集会計担当 札幌市立平岡小学校 教諭 佐藤 秀則
メールアドレス hidenori.sato@sapporo-c.ed.jp

(メール送信ができない方は、FAX 011-883-9419)

■12月28日までに「北海道学校図書館協会 文集会計」宛に、申込・送金をお願いします。

1月下旬にお届けを予定しています。詳しくは、[ホームページをご覧ください。](#)

締切を過ぎての申込の場合、2月下旬のお届けとなります。

優良賞

小学校（低学年）の部

函館市港小	2年	小林 京
札幌市北野台小	2年	森永萌々夏
留萌市留萌小	2年	村上 創心
函館市北美原小	2年	有金 萌咲
旭川市神楽小	2年	中村紗和子
室蘭市旭ヶ丘小	1年	太田 悠翔
苫小牧市ウトナイ小	2年	山内 杏倫
森町森小	1年	佐藤 礼奈
岩見沢市第一小	2年	伊藤 美月
砂川市空知太小	2年	西泉 慧
七飯町七重小	2年	岡川 志穂
岩見沢市美園小	2年	砂沢 玲
留萌市留萌小	2年	福岡 碧
苫小牧市若草小	1年	田嶋 新
札幌市有明小	1年	大内 隆聖
旭川市愛宕東小	2年	宮田桜太郎
室蘭市海陽小	2年	境井 理人
室蘭市八丁平小	1年	高橋きらり
帯広市稲田小	2年	濱谷 朋果
旭川市緑が丘小	2年	池内 咲心

苫小牧市沼ノ端小	4年	佐々木真結
函館市赤川小	3年	加藤 優希
苫小牧市拓勇小	4年	加藤 壮真
函館市深堀小	3年	長南 紗羅
札幌市日新小	3年	益井 桜
旭川市永山小	4年	佐藤 心咲
室蘭市海陽小	3年	武田 涼佑

小学校（高学年）の部

紋別市南丘小	5年	高橋穂乃香
美幌町東陽小	6年	長島美愛子
釧路市山花小	6年	松本 七虹
小樽市山の手小	6年	羽沢 帆南
教育大附属函館小	6年	兵吾 泰規
函館市北美原小	5年	蠟崎 真翔
砂川市空知太小	5年	三浦 もも
旭川市緑が丘小	5年	野口 彩
羽幌町羽幌小	5年	藤澤 悠伸
苫小牧市緑小	6年	鈴木 悠平
札幌市北野台小	5年	大野 佑真
士別市士別小	5年	高島 佑介
滝川市東小	6年	藤森 真衣
苫前町古丹別小	6年	明石 誠太
旭川市陵雲小	6年	工藤 大誠
音更町柳町小	6年	横澤 紗映
旭川市高台小	5年	佐藤 開生
教育大附属札幌小	6年	加藤 優奈
函館市北美原小	6年	太田 陽
札幌市山の手南小	5年	長堀 巧

藤女子中	2年	長谷 涼那
芽室町芽室中	1年	田村 環名
士別市朝日中	3年	西田 文香
留萌市港南中	3年	滝本 夕佳
岩見沢市光陵中	1年	山下 大志
岩見沢市明成中	1年	中山 啓太
岩見沢市栗沢中	3年	谷川うらら
遺愛女子中	1年	武山 裕佳
遺愛女子中	1年	佐藤 千代
函館白百合学園中	3年	横井 啓乃
室蘭市本室蘭中	2年	久保 遙音
室蘭市本室蘭中	2年	買手菜々星
室蘭市椏蘭中	2年	佐藤 優実
小樽市菁園中	3年	河邊 梨花
七飯町七飯中	2年	大清水愛夏
留萌市留萌中	2年	佐伯 愛花
岩見沢市豊中	1年	二瓶 優生
知内町知内中	3年	齋藤 蓮
小樽市菁園中	3年	寺田 智紀

高等学校の部

旭川実業高	1年	澁谷 綺星
旭川永嶺高	1年	庄司 光愛
士別翔雲高	1年	船越 春香
札幌光星高	2年	加藤 萌香
留萌高	1年	岩佐 奏葉
遺愛女子高	1年	奴賀さくら
帯広南商業高	1年	吉尾 心
帯広南商業高	1年	井上 紗耶
音更高	2年	長瀬莉々香
函館西高	2年	加藤 拓也
室蘭清水丘高	3年	千葉麻結香
遺愛女子高	1年	佐野 史夏
遺愛女子高	2年	丸山 紗世
帯広柏葉高	2年	角田康太郎
帯広緑陽高	3年	山本 妃笑

中学校の部

北斗市大野中	1年	岡本 椋蓮
滝川市明苑中	3年	横山 光
苫小牧市明野中	1年	多田 結子
藤女子中	2年	野崎愛加利
藤女子中	2年	姉崎 優希

支部だより ～空知支部

空地支部は、「学校図書館を学びの中心にするための整備とはたらきかけについて」をテーマに研究をすすめています。会員はかつて11人いましたが、退職者の後に人が入らず今では半数以下となっています。岩見沢市と滝川市以外の22市町を網羅していますが、会員が少なく財源もないため、たいへん苦しい状態です。しかし、学校図書館の重要性から、少人数ながらも長期休業ごとの学習会と読書感想文コンクール開催のとりくみを続けています。

- ① 学習会 長期休業ごとに実施しています。2012年度からは、「学校図書館クリニック」中心になりました。学校図書館を整備することで、来館者が増え、学習にも使えるということに参加者に体験してもらうことで、重要性が認知されると考えました。学校図書館クリニック実施校のリピーター率が80%とたいへん高いことから、有効であると考えています。

以前の学習会は、「読書感想文の書き方」「ブックトーク」「ポップアート」「落款作り」などを行っていました。今年度は、夏季休業中に1校のクリニックを予定していましたが、新型コロナウイルス感染予防のため、中止となりました。状況を見て冬季休業中に実施の予定ですが、今のところ、学校図書館クリニックの内容では開催は難しいと感じています。感染予防対策をしながらの開催に向けて、検討中です。

- ② 空知読書感想文コンクール
9月28日（月） 中学校応募作品審査
10月2日（金） 小学校応募作品審査
参加校がだいたい決まっていますが、100作品以上が集まるコンクールです。今年度は、応募数は半分以下でした。新型コロナ感染予防対策のため、稼業日が少なく読書感想文の指導をする時間がとれなかったものと思われます。しかし、継続して応募している学校は、この積み重ねで年々よい作品を応募するようになっています。

学校図書館への予算、人員の配置、意識には地域差がありますが、学校図書館の重要性は変わりません。学校図書館が学びの中心になることを浸透させていくよう活動が続けたいと思います。

(文責 北海道学校図書館協会空知地区支部 砂川市立空知太小学校 教諭 古関 亮子)

支部だより ～苫小牧支部 コロナ禍のなかで

今年、新型コロナウイルスの影響で学校では、今まで通りの教育活動ができなくなりました。苫小牧支部でも、例年通りの活動ができない一年となりました。今までは「苫小牧の子どものための選定図書」を苫小牧市立中央図書館との共催で選書する活動や、読書感想文・読書感想画の審査・調べる学習コンクールの審査などの活動、学校図書館ボランティアを集めて情報交流を行うボランティア連絡会や夏休み中の学校図書館研修会、11月には研究大会で授業公開などの活動を行ってきました。

コロナ禍にあっても何とか実施できたものもありました。「苫小牧の子どものための選定図書」の選書については、部会員全員で集まらず少人数で選書にあたりました。また、読書感想文や読書感想画や調べる学習コンクールの審査なども、例年通り行うことができた活動の一つです。定例の部会が開けないことで、学校図書館に関する研修や授業研究が行えなかったのが大変残念です。特に、令和5年度に実施予定の全道大会に向けての準備についてほとんど進まない状況となったことは大きな不安です。来年度以降、活動がどのような形で再開できるかはわかりませんが、今年度のように、感染リスクを抑え、可能な範囲で今まで行ってきた活動を再開していきたいと思っています。

今年は、新型コロナウイルスの影響で今まで「当たり前だった日常の大切さ」をいろいろな場面で実感した一年でした。苫小牧支部としても、月に1度の定例の部会で、一緒に作業したり、研修を深めたりする場があることが「当たり前」のように思ってきましたが、無くなって改めて大切な時間だったことに気付かされたような気がします。「学校図書館を通して仲間とつながること」これは、学校図書館の活動を通して子どもたちに伝えたいことでもあり、それを伝える側の私たちにとっても大切なものであると再認識しました。

(文責：苫小牧市立錦岡小学校 教諭 鈴木 祐亮)

支部だより ～帯広支部

帯広支部では帯広市図書館や帯広市内の小中学校や教育団体と連携して、例年次のような活動を行っています。

① 学校図書館担当者研修会

各小中学校の図書担当者に、パソコンを用いた学校図書館の蔵書管理や貸し出しに関するシステムの使用方法について説明を行うほか、学校図書館での様々な取り組みについて交流を行っています。初めて学校図書担当になった先生から、「不安な点を解決できた」「他の学校の運営の工夫などを知り、参考になった」といった感想をいただいている取組です。

② 学校図書館クリニック

帯広市図書館の職員の方を講師に招き、各校の図書担当者が図書館の使いやすいレイアウトや蔵書の配置、ポップなどについて研修します。

③ 帯広市読書感想文コンクール

小学校低学年・中学年・高学年・中学校の四部（小学校中学年の部以上は第一類・第二類に区分した計七部門）で、市内小中学生が夏休みに作成し応募した読書感想文について審査を行っています。応募した中から選ばれた入賞作品については、11月に帯広市図書館の表彰式にて表彰を行うとともに、「帯広市児童生徒読書感想文集」にまとめ、各校に配付しています。

④ 帯広市図書委員交流会

市内中学校の図書委員会代表生徒に集ってもらい、活動の交流を行っています。集まった中から数校について図書委員会の活動について発表してもらった後、ピブリオバトルを通して図書委員どうしの交流を深めています。

その他、帯広市図書館の学校への配本事業などへの連携・協力や、学校図書館運営マニュアルの作成・配付といった事業についても随時行っています。今年度はコロナ禍のため、人が集まる企画など、内容の大幅な変更・縮小を余儀なくされていますが、できることからしっかりと取り組むという方向性で活動を行っています。

今後も帯広市の児童生徒がさらに本に親しんでいけるよう、会員一同で取組を進めていきたいと考えています。

(文責：帯広市立帯広第一中学校 主幹教諭 芹澤 拓哉)

学校図書館情報

◆第48回中学生作文コンクール審査終了

ウポボイ開業を記念してアイヌ民族文化財団賞を新設しました。イランカラブテの意味からイメージした「君に逢えてよかった」のテーマのもと、今年も多数の応募がありました。各地区の審査をされた皆様、ありがとうございました。来年1月6日のウポボイでの中央・日胆地区表彰式を皮切りに各地区全5回、表彰式が行われる予定です。

◆「学校図書館調査事業」のお知らせ

一般社団法人北海道ブックシェアリング(江別市)は、本道の読書環境の整備を目的に、教育関係者と図書関係者によって2008年に設立したNPOです。読み終えた本を再活用して学校や福祉施設に提供するなど、被災地の図書館の再開支援や道内各地の読書イベントの支援などを手がけてきました。



当会は「学校図書館は地域における読書のセーフティネット」と考え、様々な支援事業を実施してきました。2012年には道内の小中学校816校に参加いただき、学校図書館に関する広範な調査を実施。そのデータは現在でも教育機関や図書に関する機関で活用されています。そして2019年度から調査を希望する学校を訪問し、50項目にわたるきめ細やかなデータ採取と分析とアドバイスを実施する「学校図書館調査事業」をスタートしました。道内全域の小中学校(公立私立問わず)が対象で、これまで16校を訪問し詳細な調査を実施し、分析とアドバイスを通じてより良い学校図書館づくりにつなげています。

調査時間は1時間~1時間半で、その約1ヵ月後に調査結果・分析・提言を郵送します。ご希望があれば、学校図書館担当者や教育関係の方々にお集まり頂き、レクチャーを実施することも可能です。

本調査では学校名や自治体名を外部に公表することはなく情報保護に十分に配慮しています。また事業は公益財団法人の社会貢献事業助成金によって実施するもので、学校や自治体の費用負担はありません。調査をご検討される学校には資料やご案内を差し上げますのでお気軽にお問い合わせください。

【申し込み・問い合わせ】

一般社団法人北海道ブックシェアリング
江別市大麻東町13-4 mail:hk_bookshare@yahoo.co.jp
電話:011-378-4195 FAX:011-378-4196

◆第53回北海道学校図書館研修講座へのご参加を

- ・日時 令和3年1月7日(木)
- ・会場 北海道立道民活動センター [かでの2・7]
- ・講演 「民主主義社会と学校図書館
—批判的思考力と関わって—」
元藤女子大学教授 渡邊 重夫 氏
- ・講座 「選択講座」「指導者研修講座」

※今後の状況により実施できない場合はHPでお伝えします。

事務局

事務局長 佐藤 正行(札幌市立西岡南小学校長)
事務局校 札幌市立西岡南小学校
〒062-0034 札幌市豊平区西岡4条12丁目7-1
TEL 011-582-6350 FAX 011-582-1590

Amenity B-Coat

本の破損や汚れを防ぎながら、抗菌効果を発揮するブックカバー「アメニティBコート」ポリプロピレンフィルムのため、燃焼時にも塩素ガスなど有害物質が発生せず、安心です。ご指定の上ご愛用下さい。

キハラ株式会社

〒062-0035 札幌市豊平区西岡5条3丁目8-15
TEL (011) 857-3331
FAX (011) 857-5211

◆新刊紹介

『批判的思考力を育てる学校図書館

付：図書館利用記録とプライバシー』

渡邊 重夫 著 2020年6月23日初版

ISBN 978-4-7872-0073-0 青弓社 2,400円+税

当協会の顧問であり、全国SLAのスーパーバイザーでもある著者の最新本です。

学校図書館とは何か、それは、子どもの成長・発達の権利を日常的に支える教育環境であり、同時にすべての子どもが、学校図書館を利用することで平等に情報(学習材、読書材)を入手し、豊かな学びと育ちを保障する学校社会の「セーフティネット」であると論じつつ、「教養」形成の役割についても言及しています。著者には、来年1月の研修講座において、ご講演いただく予定です。



編集後記

本来ならば、華やかな舞台となる読書感想文コンクール表彰式において、全道の子どもたちの晴れやかな笑顔に接しこちらも元気ももらうところでしたが、残念ながら現在の状況では実現できませんでした。会えなかった子どもたちのことを思い発送作業を行いました。届いた賞状等を取組の証としご家族の記念となり益々読書が盛んになることを祈念してやみません。

(編集：村山 知成 杉本 操 野村 邦重)
大久保雅人 佐藤 正行

ホームページアドレス

<http://sla.gr.jp/~hokkaido-sla/>